41の橋を巡るツアーに就航するのを前に、出発式が30日、同市中区のピア象の鼻で開かれた。

県と横浜、川崎両市、臨海部の立地企業や旅行・交通事業者などでつくる京浜臨海部産業観光推進協議会

「多くの方に京浜臨海部を見て学んでもらい、また来たくなるような神奈川になることを期待している」と話した。

かなもえ号は全長約12㍍で44人乗り。景色を堪能できるように屋根がないのが特徴。京浜フェリーボート（横浜市中区）が運航し、協議会キャラクター「カナ

県庁そばのピ
「かなもえ号」

ツアーの問い合わせはティー・ゲート☎03（685 9）0212。（三木　崇）

浜港内からピア日本丸に到着する。就航は7月中旬以降。開催時期や料金など

京急線黄金町駅（横浜市南区）前のバス停に置かれたソファを巡る問題で、横浜市は30日、ソファを撤去した上で新たにベンチを設置した。

南土木事務所によると、同日午後にソファ2台を撤去。新たに樹脂製のベンチ

京急線黄金町駅前のバス停に新たに横浜市が設置したベンチ（同市提供）

1脚を置き、動かないようにボルトで固定した。作業

「お札まき」露店復活

戸塚・八坂神社の伝統行事

スポンサー、協賛金募集

女装した男性の氏子らがお札をまきながら踊り歩く、横浜市戸塚区の八坂神社の伝統行事「お札まき」で、昨年取りやめた露店が復活する。新たに組織された実行委員会は「子どもからお年寄りまで楽しみにしている。安全、安心に運営し、地域活性化につなげたい」と話し、協賛金を募っている。

（吉田　太一）

お札まきは江戸時代中期の元禄年間に始まったと伝わる行事。市の無形民俗文化財に指定され、毎年7月14日に開かれている。

神社から戸塚駅に向かう沿道に露店が並び、毎年2万人超が集まる。一方で来場者が深夜まで騒いだり、ごみが散乱したりする問題が発生。昨年5月、戸塚署は氏子らでつくる祭礼実行委員会に、露店の規模縮小や出店場所の変更を提案。店の割り振りが間に合わないなどの理由で出店は見送られた。

年配者らから「昔から続く光景がなくなり寂しい」との声が出て、露店復活を求める署名は5500人分を超えた。昨年から有志らが準備を進め、戸塚観光協会、商店街、町内会、戸塚区役所などで組織する「とつか夏まつり実行委員会」が6月1日、結成された。

運営費の協力を呼び掛けるリストバンドやチラシ
＝横浜市戸塚区

露店の規模は250店舗で一昨年と同様だが、国道沿いをやめるなど場所を一部変更。警備員を40人近くと倍増させ、ごみを回収する100人規模のボランティアを配置する。氏子総代の内田俊夫さん(66)も「広範囲での地元協力が必要だった。実行委と手を携えてにぎやかな祭りを催したい」と意ぶ。

実行委はスポンサーを募っているほか、リストバンドを作成。1本300円で喫茶店など数カ所で売り出し、警備費やごみ回収費に当てる協賛金を集める。

問い合わせは、実行委事務局(大洋建設内)☎045(861)0025。

「氷川丸ものがたり」映画の舞台で16日に上映会

【中】日本郵船は7月16日、長編アニメ映画「氷川丸ものがたり」の上映会を、横浜市中区の山下公園前に係留・保存されている日本郵船氷川丸で開く。

映画のワンシーン（C）氷川丸ものがたり製作委員会